

中期経営計画に盛り込む

鋼管づくり一筋の当社では、しっかり利益を出して税金を納めることを社会貢献の大前提としていますが、それに加えて、これまで数々のメセナや社会貢献活動を行ってきました。これによって私は、利益を出すために日々頑張っている従業員たちに、当社の一員として社会貢献を果たしているのだという実感を持ってもらいたいと思っています。また、全てのステークホルダーの方々にも、当社の数々の社会貢献活動を知っていただかなくてはなりません。ただ、これまではそうした活動を行う仕組みや規定などを設けていませんでしたので、中期経営計画(2015年4月～18年3月)

の中に、具体的に盛り込むこととしました。

毎年、税引後

の利益の中から株主配当などを引いた残りの0.5%程度を、社会貢献活動に充てるというものです。現在、当社はこの目標のもとで活動を推進しています。

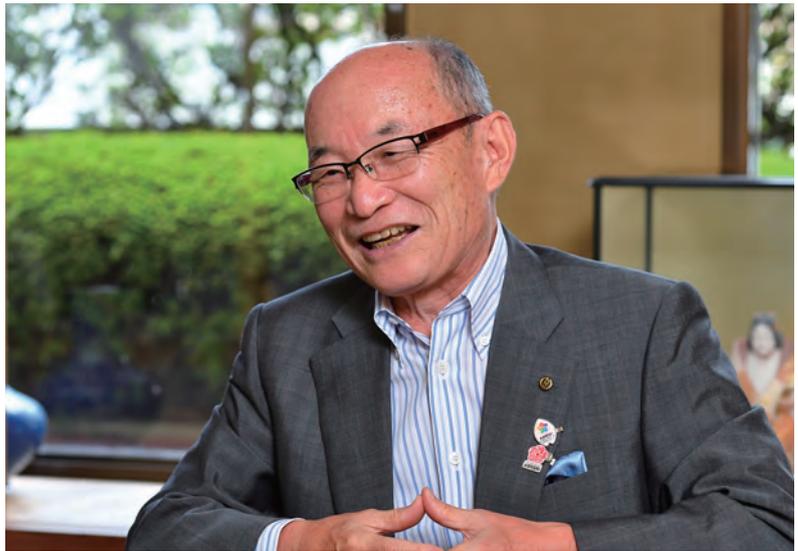
国内外の医療活動を支援

ベトナムやインドなど海外でも事業を展開している当社は、国内外を問わず地域社会に貢献する取り組みを重視しています。そのひとつが「NPO アジア失明予防の会」への支援です。ベトナムでは、貧しさや医療技術の遅れのため満足な眼科治療を受けられず、失明にいたるケースが多くあります。現地で眼科治療を行っておられる服部匡志医師は、そうした人々を救うために、私財を投じて同会を設立されました。私は服部医師の活動を10年ほど前から存じており、当社では、2015年から同会への支援を行っています。

また、iPS細胞の開発者である山中伸弥教授の「研究者を安定的に雇用する資金などが公的補助だけでは不十分だ」という訴えを聞き、再生医療発展の一助にと、2015年から「iPS細胞研究基金(京都大学基金)」への支援を行っています。

心を育む文化活動に協賛

メセナ活動としては、2012年から正倉院展(主催：奈良国立博物館)への協賛を行っています。また、大阪を代表するオーケストラの大阪フィルハーモニー交響楽団が、2014年をもって行政の補助金が打ち切られご苦労されていると聞き、当社は2015年から「大阪フィルハーモニー協会」の法人正会員として協力させていただいています。同年からは、劇団四季の「こころの劇場」にも協賛しています。全国各地の小学生を無料で劇場に招待し、子どもたちに生きるうえで大切なことを舞台を通じて語りかけるもので、今年度当社は、事業地の



国内外で人々の笑顔を広げるために

千葉県、愛知県、大阪府での公演を支援しています。

現在、私が代表幹事を務める関西経済同友会では、若い人がワンコイン(500円)で文楽を鑑賞できる活動を支援しています。私は、昨年7月に亡くなられた文楽太夫の人間国宝・竹本源大夫さんとは、長らくご近所付き合いをさせていただいてきましたので、私自身、文楽に対する理解者であると自負しています。なお、余談ですが、そのご縁で、源大夫さんの奥様の春日豊子さんは、私の20年来の小唄の師匠です。2016年7月の発表会(国立文楽劇場)には、私も出演しました。仕事を離れて、時にはこうした伝統文化にも親しんでいます。



ベトナムで眼科治療を行う服部匡志医師(右)



劇団四季のキャストが来社



第68回正倉院展チラシ

鈴木博之氏

1946年大阪生まれ。69年東京大学工学部機械工学科卒業。住友商事での勤務を経て80年丸一鋼管入社。2013年6月より現職。16年5月関西経済同友会代表幹事就任。

丸一鋼管株式会社

本社 大阪市西区北堀江3丁目9番10号

国内外に拠点をもつ溶接鋼管のリーディングカンパニー。1926年創業(1947年設立)、資本金95億9,515万円、従業員数1,988人(連結)・644人(単体)。売上高1,449億6,800万円(連結)、896億1,500万円(単体) <数字は2016年3月期>。